

巻 頭 言

歴史分科会長 逗子高校 澤野 理

この3月に公示された新学習指導要領で新科目「歴史総合」の設置・必修化が確定しました。新科目は、自国史と外国史を融合した科目という点で、少なくとも戦後の高校教育で初めての試みであり、現場の高校教員も教科の内容や教授方法など多くのことを研修する必要が生まれました。一方、大学における教員養成についても、日本史・世界史の別を自明の前提としてそれぞれの教員を養成するという、従来の養成方法を大きく見直す必要に迫られていることと思います。加えて、昨秋、歴史教育界を超えて様々な議論を呼んだ「歴史用語の精選」に関する問題は、大学受験向けの授業を行うか否かを問わず、歴史をどのようなフレームで教える(学ぶ)際にどのように用語を用いるかという視点の重要性を、われわれに突きつけたのではないかと思います。

全国的に見ると、これらの問題に組織として取り組む場が意外と少ないことが、悩ましいところですが、本県では歴史分科会が高大連携歴史教育研究会や大阪大学歴史教育研究会など外部の研究団体とも連携しつつ、これらの問題への対応に取り組んできました。こうした活動を広く発信する場として、毎年夏に世界史の高大連携講座や日本史サマーセミナーを開催し、年ごとに参加者の数を増やしています。今年もこれらの催しを開催する予定ですので、多くの皆様の参加をお待ちしております。以下、ここ数年同じ内容の繰り返しで恐縮ですが、今年もあえて書かせていただきます。アクティブラーニング的手法など「新たな授業手法」を研究する際、「グループによる話し合いや発表」といった「形」をなぞるだけでなく、その手法を通じて「何を生徒に伝えるか」ということでしょう。そして、それを可能とするためには、教師の側に幅広い知識や教養の裏付けが必要であることは論を俟たないところです。そのための研修の場としての社会科部会・歴史分科会の役割は、ますます重要なものとなっていますし、実際、ここ1,2年のうちに新採用の先生をはじめとする若手の先生の参加も増えています。われわれ社会科部会・歴史分科会の各種活動は、現状では数少ない「社会科教師」「歴史教師」としての力量を高めるための場です。社会科や歴史の授業でお困りの時、別に困っているという程ではないが自校以外の教員に話を聞いて欲しい時、日々の教材探しにお困りの時、ズバリ、指導法に関するアドバイスを聞いてみたい時などなど、いつでもお声がけください。

時節柄、校務等ご多忙とは存じますが、これを機にひとりでも多くの先生方がわれわれの参加いただけることを祈念することをもって、巻頭言とさせていただきます。今年もよろしくごお願い申し上げます。